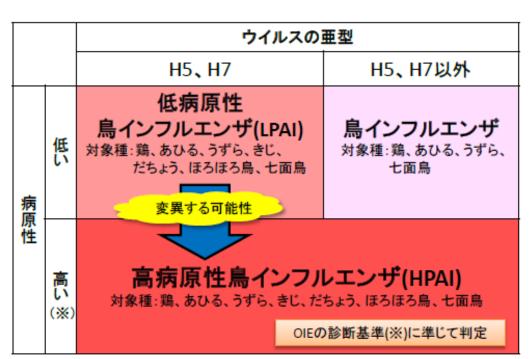


我が国における鳥インフルエンザの分類

鳥インフルエンザは、A型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥類の疾病です。

我が国の家畜伝染病予防法では、病原性の程度及び変異の可能性によって、高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)、低病原性鳥インフルエンザ(LPAI)及び鳥インフルエンザの三つに分類されています。

平成23年4月の同法改正前は、高病原性鳥インフルエンザ(強毒タイプ・弱毒タイプ)と鳥インフルエンザに分類されていましたが、法改正を機に国際獣疫事務局(OIE)が定めている国際的な基準に合わせるため、現在の分類に変更されました。

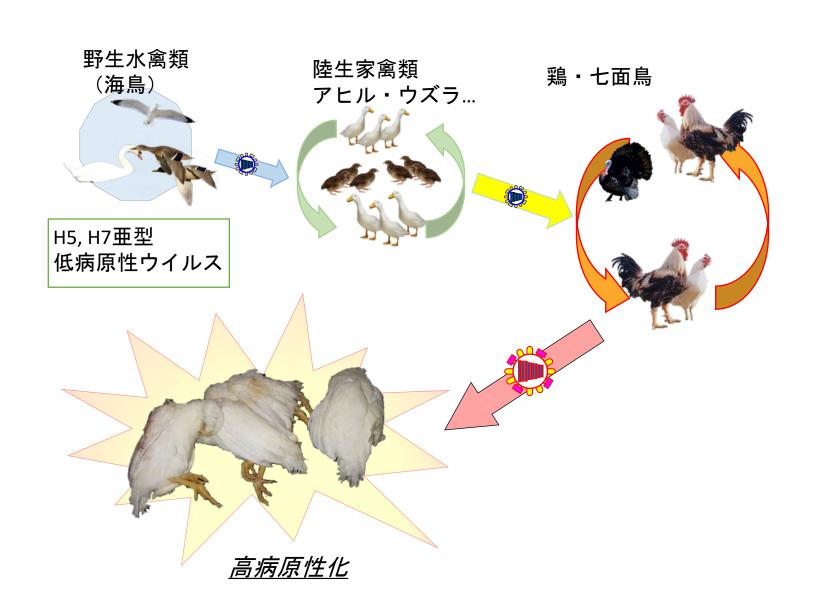


家畜伝染病予防法の改正に 伴う変更(H23年4月) (改正前) (改正後) 法定伝染病 高病原性 高病原性 鳥インフルエンザ 鳥インフルエンザ (強毒タイプ) 高病原性 低病原性 鳥インフルエンザ 鳥インフルエンザ (弱毒タイプ) 届出伝染病 鳥インフルエンザ ➡ 鳥インフルエンザ 変更なし

- ※次に示すOIEの診断基準(高病原性鳥インフルエンザ)のいずれかを満たした場合に、病原性が高いと判定
- ①6週齢鶏の静脈内接種試験で病原性指標(IVPI)が1.2以上又は4~8週齢鶏の静脈内接種試験で75%以上の致死率を示す。
- ②H5又はH7亜型のウイルスで、特定部位のアミノ酸配列が既知のHPAIウイルスと類似している。

高病原性鳥インフルエンザの出現様式 🎊 農研機構

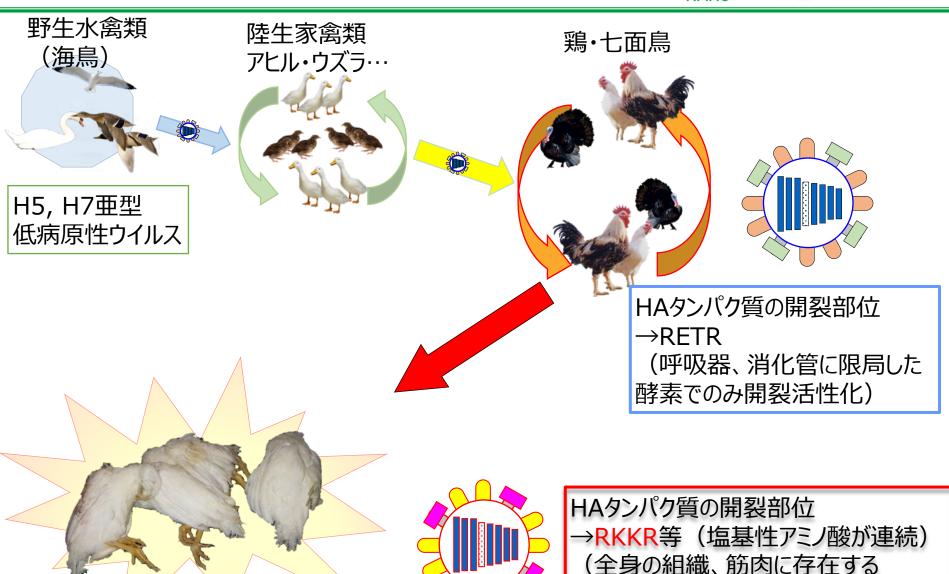




高病原性鳥インフルエンザの出現様式

高病原性化

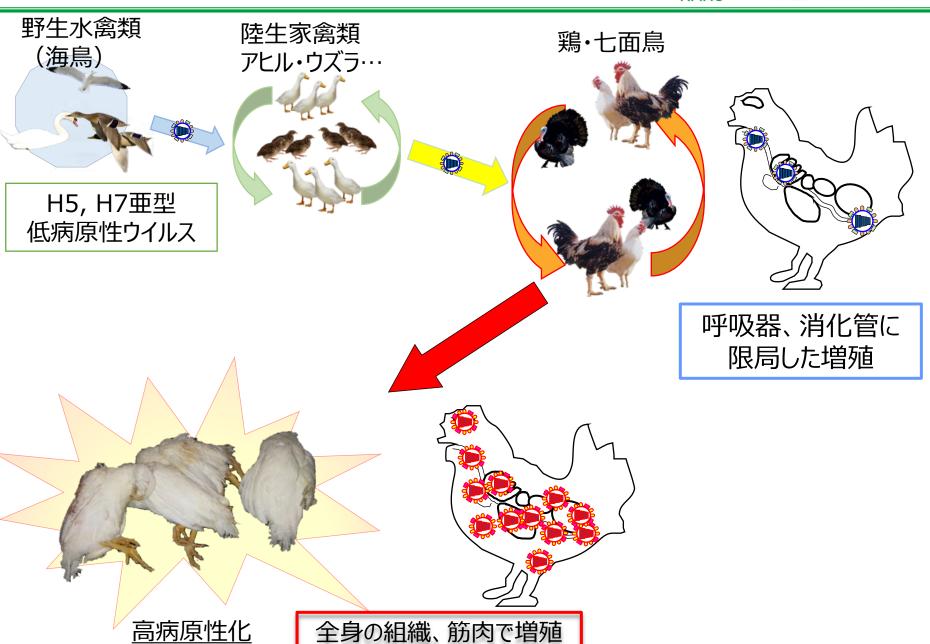




(全身の組織、筋肉に存在する 酵素で活性開裂化)

高病原性鳥インフルエンザの出現様式

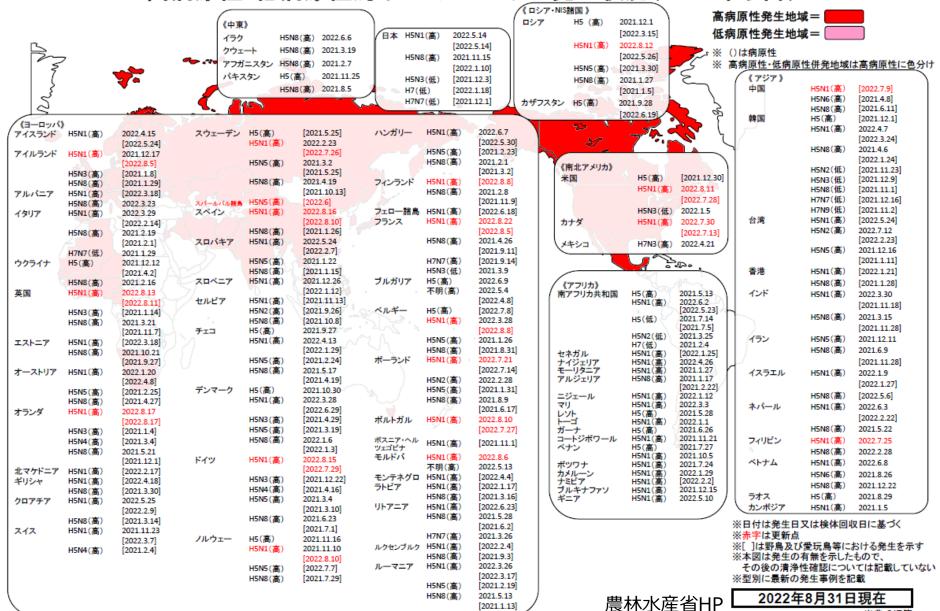






出典:OIE等

高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年以降)





2004年以降国内で発生したHPAI

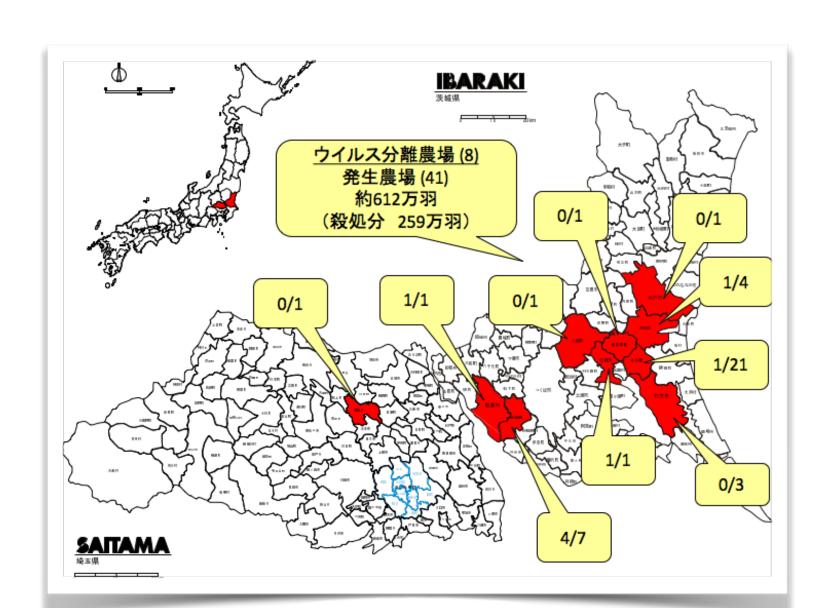
2004年1月~3月	発生が確認された都道府県 山口、大分、京都 (3~4月京都・大阪 ハシブトガラス)	発生農場数 4	亜型 H5N1
2005年6月~12月*	茨城、埼玉	41	H5N2
2007年1月~2月	宮崎、岡山 (1月熊本 クマタカ)	4	H5N1
2008年4月~5月	秋田、青森、北海道 (野鳥でのみ検出)	_	H5N1
2009年2月~3月*	愛知 (3例ウイルス分離、4例抗体陽性)	7	H7N6
2010年11月~2011年3月	島根、宮崎、愛知、三重、大分、鹿児島、奈良、和歌山、千葉	24	H5N1
2014年4月	熊本	1	H5N8
2014年12月~2015年1月	宮崎、岡山、山口、佐賀 (11月~1月鹿児島、千葉 野鳥)	5	H5N8
2016年11月~2017年3月	青森、新潟、北海道、宮崎、熊本、岐阜、佐賀、宮城、千葉 (11月~2月22都道府県)		H5N6
2018年1月	香川	1	H5N6
2020年11月~2021年3月	18県	52	H5N8
2021年11月~2022年5月	12道県	2	H5N8
2021年11月 22022年3月	14足术	23	H5N1

^{*:}改正家伝法では、低病原性鳥インフルエンザ(LPAI)

低病原性鳥インフルエンザ



2005年6月~12月 茨城、埼玉 H5N2





病原性

鶏静脈内接種試験

HA開裂部位の アミノ酸配列

A/chicken/lbaraki/1/05 (H5N2)

RETR

Cf. A/chicken/Yamaguchi/7/04 (H5N1)

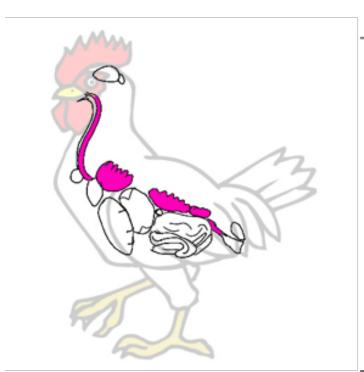


RERRKKR



鶏でのウイルス増殖性

Virus titration in organs

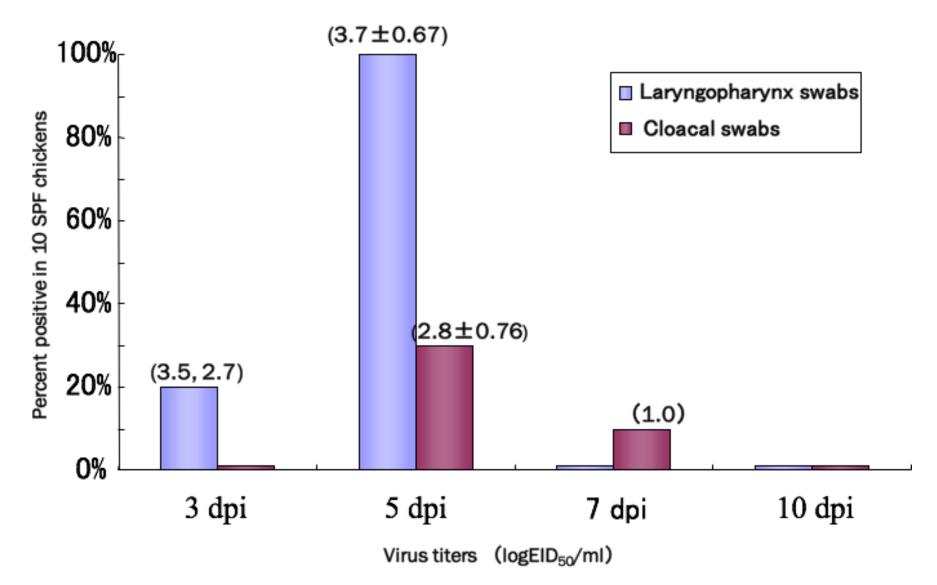


	3 dpi	5 dpi	7 dpi
気管	1/3 (6.5)	0/3	0/3
肺	0/3	1/3 (4.0)	2/3 (4.0)
膵臓	0/3	0/3	1/3 (6.5)
腎臓	0/3	1/3 (7.5)	1/3 (6.0)
直腸	1/3 (4.7)	2/3 (3.5)	1/3 (4.5)

Negative in brain, spleen, liver or muscle Positive birds/Inoculated birds (EID₅₀/g)

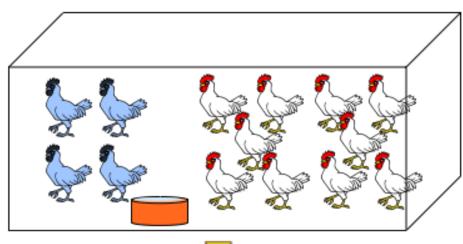


感染鶏ウイルス排泄





鶏でのウイルス伝播性 直接接触



ウイルス接種から14日後



